

研究課題名	神経変性疾患における剖検組織を用いた分子病理学的検索
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科脳神経内科学 教授 丸山 博文
研究期間	許可日 ~ 2027（令和9）年3月
対象者	1974（昭和49）年1月24日から2026（令和8）年12月31日の間に、広島大学病院および共同研究施設で剖検病理解剖を受け、剖検病理診断を受けられた患者さんを対象とします。
意義・目的	アルツハイマー病やパーキンソン病をはじめとした神経変性疾患の原因については、現在、原因のタンパク質が脳に蓄積し、神経細胞が減っていくということが明らかになっていますが、原因タンパク質が脳に蓄積し、脳全体に広がるしくみについてはまだ解明されていません。今回、亡くなられた患者さんの脳を顕微鏡で検査することによって、その仕組みを明らかにするため、この研究を計画しました。
方法	<p>本研究は、当院で病理解剖をうけられた患者さんの脳組織を使用します。標本より異常部位を抽出し、顕微鏡で観察するほか、異常なタンパク質の分析を行います。</p> <p>また、診療録（カルテ）情報を転記して行います。カルテから転記する内容は身長、体重、性別、病気にかかっていた期間、画像検査（CT、MRI）、病理診断報告です。</p> <p>（個人を特定可能な情報は解析に用いません）</p> <p>利用または提供を開始する予定日：広島大学における許可日以降（2016年3月15日）以降</p>
共同研究機関	<p>東京都健康長寿医療センター研究所（村山繁雄先生）</p> <p>徳島大学大学院医歯薬学研究部臨床神経科学（和泉唯信先生）</p> <p>ビハークの里病院脳神経内科（織田雅也先生）</p> <p>国立病院機構広島西医療センター脳神経内科（鳥居剛先生）</p> <p>本学に手渡しや郵送で情報を集め解析します。</p>
試料・情報の管理責任者	広島大学大学院医系科学研究科 脳神経内科学 教授 丸山 博文
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。</p> <p>ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。</p> <p>また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。</p>

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5201

広島大学原爆放射線医科学研究所 客員教授 倉重 毅志